

沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2011年度 前期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

第3章 自由記述による授業評価

沖縄キリスト教学院大学

2011

巻頭言

2011 年度前期授業評価に係る所感

学長 神山 繁實

本学が設置されてから 7 年が経過した。毎学期、全科目について授業評価を実施している。授業評価によって教員は自分が担当している授業内容と授業方法について、自らを振り返る参考になる。授業評価について、教員、学生の双方の立場から見解の相違があるのは当然であるが、少なくとも教員は授業について学生たちの印象と感想を知ることができる。

学生の授業とその評価結果については、ここ数年来それほどの変化はないが、大学で学ぶ強い意欲と明確な目的意識を持っている学生もいる。彼らの期待に応えられる授業科目の設置と充実した授業展開が期待されている。

前からの問題であるが、学生から教員に対するクレームが増えている。ハラスメント問題は一方的ではなく、教員と学生双方に問題のあるケースが多い。以前はそれほど問題視されなかったものが、現在では容易に顕在化し易い環境になってきている。従来もこの種の問題は、授業評価のたび毎に提起されてきたが、ハラスメント関係の規程ができたことにより、訴える手段と窓口が明確になり、訴えやすくなってきたように思われるが、双方とも人間的成熟度と自己抑制が求められるであろう。

毎学期実施される授業評価によって、教員自らの教育的姿勢を省みる機会とれば幸いである。ご協力いただいた学生、教職員に感謝する次第である。

沖縄キリスト教学院大学
自己点検・評価・改善委員会委員
(2011年度 前期)

神 山 繁 實 (委員長・学長)
高 崎 正 名 (委員・人文学部長)
金 永 秀 (委員・宗教部長)
大 城 亘 武 (委員・教学部長)
上 原 明 子 (委員・入試部長)
近 藤 功 行 (委員・キャリア開発部長)
内 間 清 晴 (委員・図書館長)
A. David Ulvog (委員・英語コミュニケーション学科長)
与那覇 明 弘 (委員・事務局長)

沖縄キリスト教学院大学
2011年度前期
学生による授業評価報告書

第1章

学生による授業評価概要

はじめに

2011年7月に、学生による授業評価アンケートを実施した。すべての開講科目クラスを対象とした。ただし、卒業研究については集計から除外した。

全69科目、101クラスについて分析した。分析に投与された評価票は2744件であった。評価は5段階法を採用しており、1点が最低点、5点が最高点の5段階評価となっている。「1」～「5」を1点～5点に換算し、全データーを一括して設問項目ごとに、平均値、標準偏差などの基本統計量を算出した。ついで評価段階ごとの人数の分布を調べた。結果は以下の表およびグラフに掲げた通りである。表中に欠損値（システム欠損値）とあるのは無回答者の数である。

1 学生による授業評価の概要

以下に、設問毎の平均値等を掲げる。

記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	2741	1	5	4.60	.710
Q2成績評価方法	2741	1	5	4.52	.795
Q3先生の熱意	2741	1	5	4.66	.702
Q4わかりやすい	2742	1	5	4.31	1.005
Q5準備よい	2740	1	5	4.55	.788
Q6理解興味の工夫	2740	1	5	4.40	.926
Q7時間どおり	2738	1	5	4.62	.720
Q8質問の機会	2737	1	5	4.48	.857
Q9授業妨害へ対処	2737	1	5	4.43	.868
Q10薦めたい	2741	1	5	4.34	.988
Q11熱意を持って参加	2741	1	5	4.32	.897
Q12シラバス参考	2742	1	5	3.95	1.145
Q13授業を中座しない	2740	1	5	4.42	.825
Q14遅刻欠席ない	2721	1	5	4.26	.978
Q15予習復習時間	2612	1	5	2.19	1.102
Q16全体的評価	2615	1	5	4.20	.982
Q17別の科目も受講したい	2616	1	5	4.25	1.081
有効なケースの数 (リストごと)	2394				

全17項目中、15項目で4以上の結果である。これらの項目について、本学の教育は一応及第ということであろう。

「4」に満たなかった項目は、「シラバス使用」と「予習復習時間」であった。いずれも学生要因に関する項目である。

評価の散らばりの大きかった（1.000以上）、すなわち評価の個人差が大きい項目は、「シラバス参考」「予習復習時間」「別の科目も受講したい」「わかりやすい」であった。

2 評価段階ごとの分析

評価ランク毎の度数分布を調べ、前節の結果分析をより精密に検討する。比率の表記

は少数点第一位を四捨五入した形で示す。また、欠損値を除いた有効パーセントで示す。

Q1「授業の目的」は、「5」評価の比率が70%となり、良好である。この項目は「講義要項」のシラバスに明記されているが、確認の意味を含め、シラバスで確認するよう受講生に注意を喚起する必要があるだろう。なお、「1」および「2」評価の比率を合算すると2%ほどになる。

Q2「成績評価の方法」は、「5」評価が66%であり、まあ、良好だと考えられる。ちなみにこの「5」評価と「4」評価を合算すると89%となる。成績評価の方法については、「講義要項」のシラバスに明記されており、クラスで取り立てて説明を要しないとも考えられる。周知の徹底が必要である。「1」「2」評価を合算すると3%ほどになる。

Q3の先生の授業への熱意に対する評価は「5」段階が76%となっている。「4」評価（17%）と合算すれば93%となる。学生は教員の授業への熱意を高く評価している。

Q4「授業のわかりやすさ」については59%が「5」の評価をしている。なお、「4」、「5」評価を併せると80%ほどになる。分かりやすさの点では、かなり満足度が高いようである。ただし「1」と「2」評価を併せた比率が6%あるので、不満が若干あることには必要が必要である。とはいえ、大学の講義が「分かりやすい」ことを重点に評価することには論議が必要であろう。

Q5「準備がよい」については「5」評価の比率は約70%、「4」評価を加えると90%もの受講生が教員の授業の準備のよさを認めている。すなわち教材研究が十分になされていることを示唆するものであろう。「1」と「2」を合算した比率は4%である。

Q6「理解興味の工夫」は、約63%の受講生が「5」と評価している。どのような創意工夫であるかについては第3章の「自由記述」の評価を参照されたい。「1」「2」評価を合算すると5%になる。さらなる創意工夫が期待される。

Q7講義が「時間通りに始まり、時間通りに終わる」というのはごく当たり前のことと考えられる。しかしながら講義内容の「区切り」の都合で終了チャイムを無視することもまた日常茶飯事である。学生たちの評価は「5」が約74%、「4」評価が約18%である。当然の約束事として時間通りに始まり時間通りに終わることは議論の余地がない。しかし、約2%の受講生（「1」と「2」評価の合算）が不満を表明していることには気をつけなければならないだろう。

Q8「質問の機会」があるかどうかについては良好な評価である。66%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すれば87%である。「1」および「2」の評価を併せた比率は約4%である。

Q9「授業妨害への対処」については、教員はかなり適切な対処をしていると思われる。「5」評価の比率は62%である。ここでいう授業妨害とは授業中における私語、ケータイの着信音、メールの送受信、立ち歩き、居眠り、あるいは授業外の「内職」等がある。この評価項目は授業運営のうち「管理機能」に属する。受講生を授業に集中させるための教員の力量が試されている、と考えられる。「1」評価と「2」評価を合算すると3%になる。

Q10「薦めたい」とは、「この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように進めたい」ということを意味する。「5」評価の比率は約61%である。「4」評価が約22%ある。「1」評価と「2」評価を合算した比率は6%を超えている。

Q11からQ15は、学生自身の自己評価項目である。

Q11は、学生自身の「授業への熱意」を自己評価したものである。55%の受講生が「5」の評価をしている。「4」評価と合算すると約82%の受講生が「熱意を持って」授業に参加していることになる。授業にあまり熱意の持てない「1」および「2」と評価した受講生の比率を合算すると4%になる。

Q12「シラバス参考にした」への「5」評価は約44%である。「4」評価が約23%なので合算して約67%となる。「1」および「2」評価の比率は11%である。シラバスの参照は計画的な学習の前提である。シラバス利用への積極的な動機付けが望まれる。

Q13「授業を中座しない」、Q14「遅刻欠席はない」、「Q15「予習復習時間」は学生自身の「受講態度の自己評価」項目となっている。

Q13「授業中中座しない」で「5」評価したものは約60%である。「4」評価が約26%ある。合算すると86%になる。「1」評価と「2」評価を合算すると3%ほどになる。一種の授業妨害に当たるであろうが、中座の理由等は本調査では詳らかにしない。

Q14「遅刻欠席はない」は55%が「5」の自己評価をしている。「1」および「2」評価を合算した比率は6%である。何らかの事情で遅刻や欠席するのはやむをえないことであろう。ここでは遅刻や欠席の回数を質問していないのでその頻度については不明である。遅刻に関しては、1時限のみでなく2限目以降にも見かけられるので、しっかりとした指導が求められる。

Q15「予習復習時間」で「5」と回答した者の比率は4%である。「5」評価とは、週当たり3時間以上の自習をすることである。1科目あたりの週当たりの予習復習時間で1番多いのは「ほとんどしない」であり(33%)、ついで「30分ぐらい」(31%)である。両者で64%。無回答者の比率が約4%ある。1時間の講義に対して前後1時間の自学自習と15週の授業で「1単位」を構成する。本学の授業時間の1時限は90分であり、これが15回行なわれて「2単位」になる。つまり週に1回の授業科目であれば少なくとも講義時間外に180分の学習が想定されている。上の結果は学習時間の極端な短さを示している。このような状況で本学の教育(講義)が展開されている。これは教育機関としての根幹に関わる深刻な事態であろう。本学は学生が「勉強する」ことの習慣を形成するという重大な挑戦を受けているといえよう。しかも喫緊の課題である。

Q16「全体的評価」については、「無回答者」の比率が約3%ある。また「わからない」が2%ある。これらを除いて算出した「5」評価が約59%である。半数が好意的な評価をしている。「4」評価は29%である。両者の合計は約80%である。不満足(「1」ないし「2」評価)なのが7%ほどある。この比率を0%にすべく努力が必要である。

Q17「この先生の別の科目も受講したい」という評価項目は、担当教員への満足感を捉えている、と考えられる。「無回答者」が5%ほどある。これを除いた集計では、約57%が「5」の評価を行い、23%が「4」の評価をしている。「1」評価と「2」評価を合算すると8%になる。これらの者は同じ教員の別の科目も受講することに積極的でない、ということである。ここではその理由を明らかにしない。自由記述であるいは「不満理由」が記載されているかもしれない。

以下、Q1からQ17について度数分布表を掲げる。

Q1授業の目的

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	18	.7	.7	.7
2	31	1.1	1.1	1.8
3	160	5.8	5.8	7.6
4	613	22.3	22.4	30.0
5	1919	69.9	70.0	100.0
合計	2741	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2744	100.0		

Q2成績評価方法

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	27	1.0	1.0	1.0
2	45	1.6	1.6	2.6
3	226	8.2	8.2	10.9
4	626	22.8	22.8	33.7
5	1817	66.2	66.3	100.0
合計	2741	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2744	100.0		

Q3先生の熱意

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	23	.8	.8	.8
2	26	.9	.9	1.8
3	150	5.5	5.5	7.3
4	466	17.0	17.0	24.3
5	2076	75.7	75.7	100.0
合計	2741	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	3	.1		
合計	2744	100.0		

Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	70	2.6	2.6	2.6
	2	101	3.7	3.7	6.2
	3	369	13.4	13.5	19.7
	4	583	21.2	21.3	41.0
	5	1619	59.0	59.0	100.0
	合計	2742	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.1		
合計		2744	100.0		

Q5準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	27	1.0	1.0	1.0
	2	44	1.6	1.6	2.6
	3	218	7.9	8.0	10.5
	4	544	19.8	19.9	30.4
	5	1907	69.5	69.6	100.0
	合計	2740	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
合計		2744	100.0		

Q6理解興味の工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	45	1.6	1.6	1.6
	2	83	3.0	3.0	4.7
	3	328	12.0	12.0	16.6
	4	570	20.8	20.8	37.4
	5	1714	62.5	62.6	100.0
	合計	2740	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
合計		2744	100.0		

Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	16	.6	.6	.6
	2	32	1.2	1.2	1.8
	3	196	7.1	7.2	8.9
	4	481	17.5	17.6	26.5
	5	2013	73.4	73.5	100.0
	合計	2738	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.2		
合計		2744	100.0		

Q8質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	34	1.2	1.2	1.2
	2	68	2.5	2.5	3.7
	3	256	9.3	9.4	13.1
	4	561	20.4	20.5	33.6
	5	1818	66.3	66.4	100.0
	合計	2737	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.3		
合計		2744	100.0		

Q9授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	36	1.3	1.3	1.3
	2	55	2.0	2.0	3.3
	3	314	11.4	11.5	14.8
	4	633	23.1	23.1	37.9
	5	1699	61.9	62.1	100.0
	合計	2737	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.3		
合計		2744	100.0		

Q10薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	72	2.6	2.6	2.6
	2	91	3.3	3.3	5.9
	3	324	11.8	11.8	17.8
	4	595	21.7	21.7	39.5
	5	1659	60.5	60.5	100.0
	合計	2741	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
合計		2744	100.0		

Q11熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	34	1.2	1.2	1.2
	2	64	2.3	2.3	3.6
	3	409	14.9	14.9	18.5
	4	726	26.5	26.5	45.0
	5	1508	55.0	55.0	100.0
	合計	2741	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	.1		
合計		2744	100.0		

Q12シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	116	4.2	4.2	4.2
	2	188	6.9	6.9	11.1
	3	610	22.2	22.2	33.3
	4	635	23.1	23.2	56.5
	5	1193	43.5	43.5	100.0
	合計	2742	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	.1		
合計		2744	100.0		

Q13授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	17	.6	.6	.6
	2	57	2.1	2.1	2.7
	3	326	11.9	11.9	14.6
	4	698	25.4	25.5	40.1
	5	1642	59.8	59.9	100.0
	合計	2740	99.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	.1		
合計		2744	100.0		

Q14遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	36	1.3	1.3	1.3
	2	136	5.0	5.0	6.3
	3	414	15.1	15.2	21.5
	4	630	23.0	23.2	44.7
	5	1505	54.8	55.3	100.0
	合計	2721	99.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	23	.8		
合計		2744	100.0		

Q15予習復習時間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	854	31.1	32.7	32.7
	2	816	29.7	31.2	63.9
	3	631	23.0	24.2	88.1
	4	203	7.4	7.8	95.9
	5	108	3.9	4.1	100.0
	合計	2612	95.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	132	4.8		
合計		2744	100.0		

Q16全体的評価

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	44	1.6	1.7	1.7
	2	141	5.1	5.4	7.1
	3	367	13.4	14.0	21.1
	4	765	27.9	29.3	50.4
	5	1298	47.3	49.6	100.0
	合計	2615	95.3	100.0	
欠損値	0	60	2.2		
	システム欠損値	69	2.5		
	合計	129	4.7		
合計		2744	100.0		

Q17別の科目も受講したい

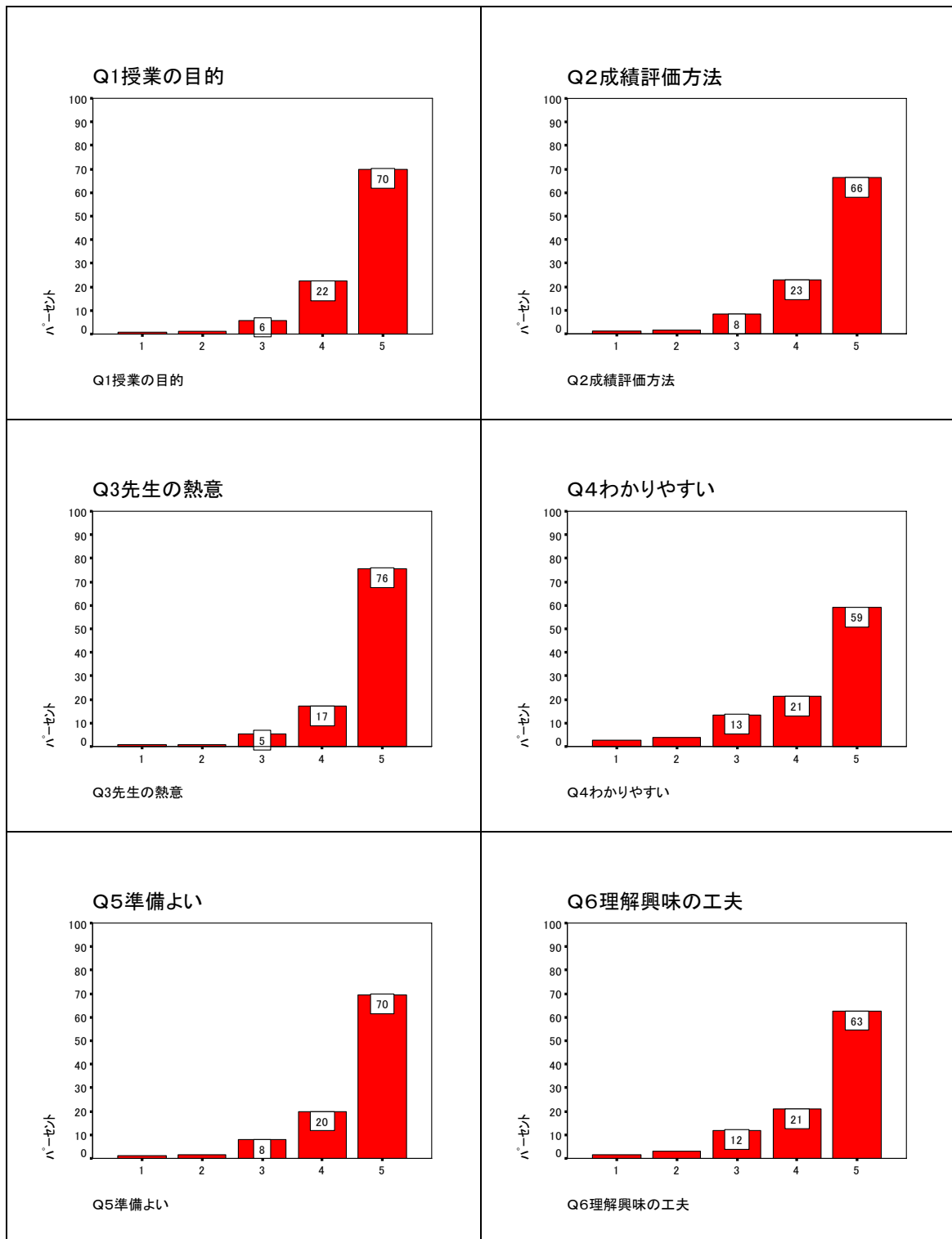
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	114	4.2	4.4	4.4
	2	91	3.3	3.5	7.8
	3	328	12.0	12.5	20.4
	4	590	21.5	22.6	42.9
	5	1493	54.4	57.1	100.0
	合計	2616	95.3	100.0	
欠損値	システム欠損値	128	4.7		
合計		2744	100.0		

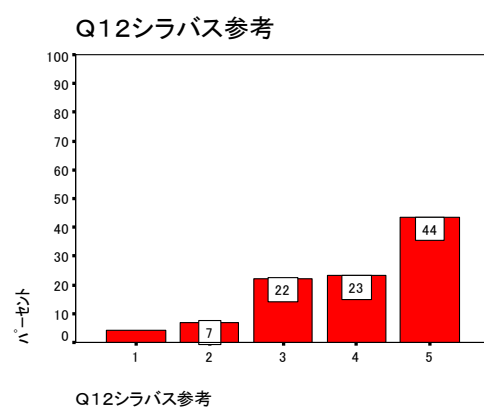
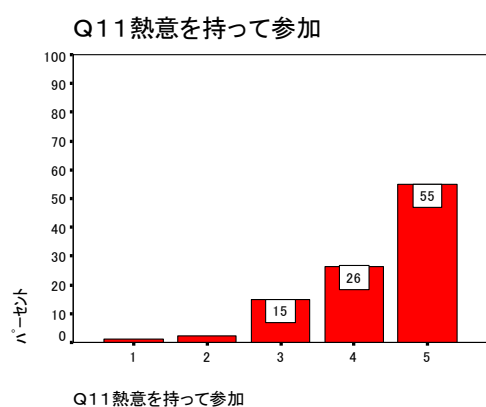
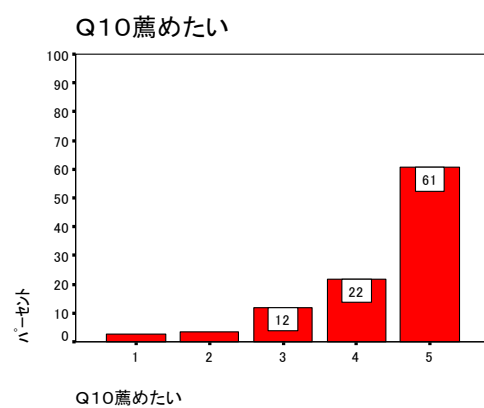
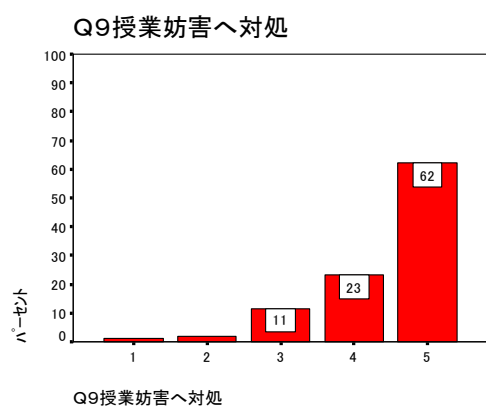
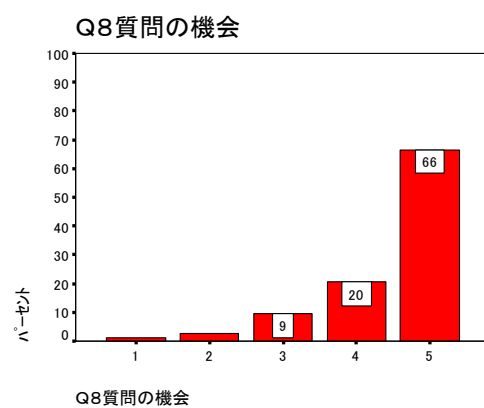
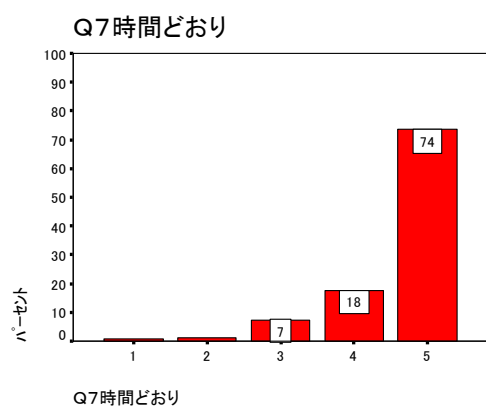
以上、評価段階ごとの出現頻度を中心に、学生による授業評価の概要を見た。

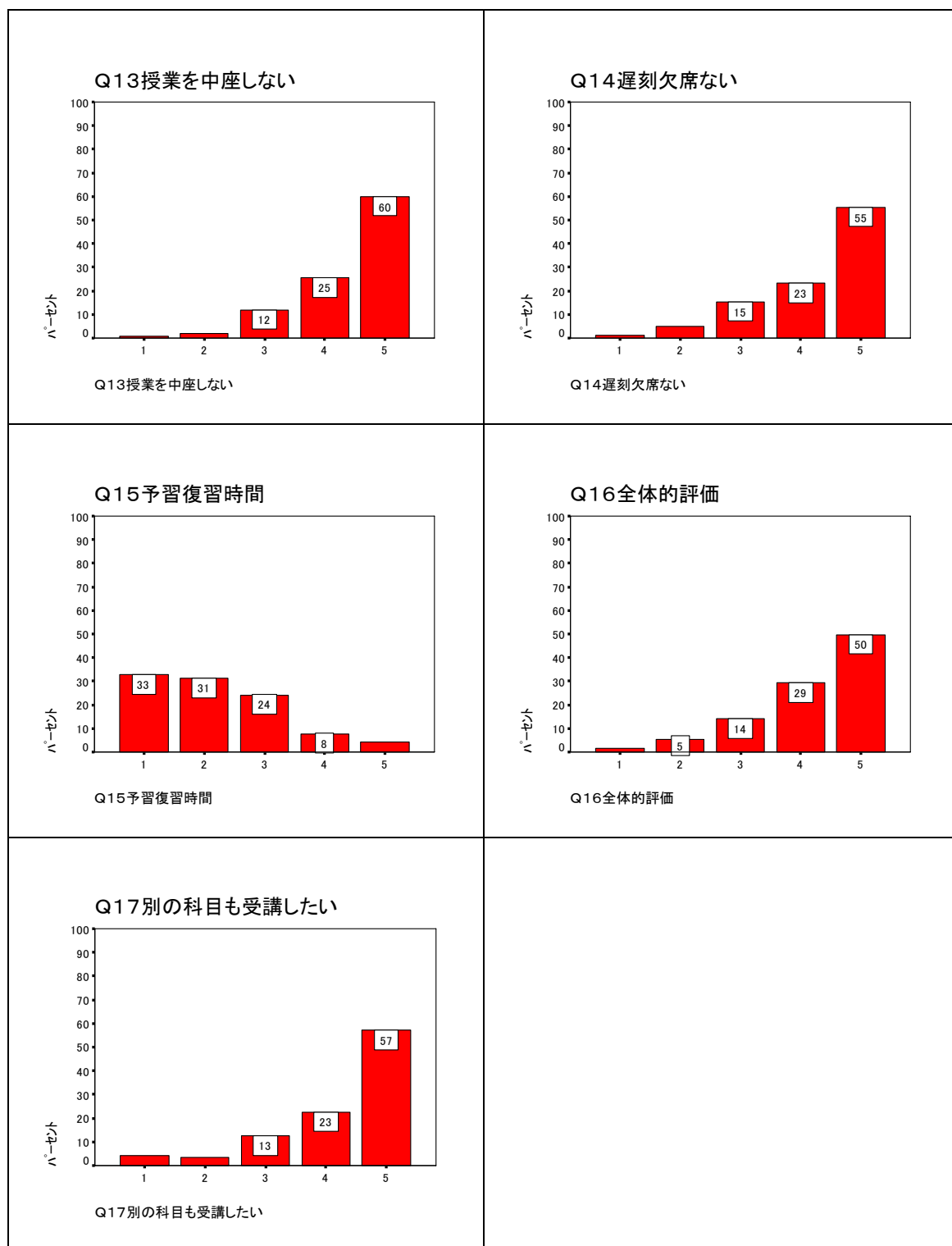
次に、以上の分布表をもとに、棒グラフにして示す。

教員要因については、逆L字型になっていること見て取れる。つまり最高評価の「5」評価がドミナントであることを示している。逆L字型にはなっていない場合でも「5」評価が最大比率になっていることは、全般的に本学の授業がおおむね良好であることを示唆するものと考えられる。

なお、Q15「予習復習時間」のみ上述の傾向とは異なり、「1」評価が最大比率になっている。「学生が勉強しない」ことが本学授業の特徴である、とは残念である。





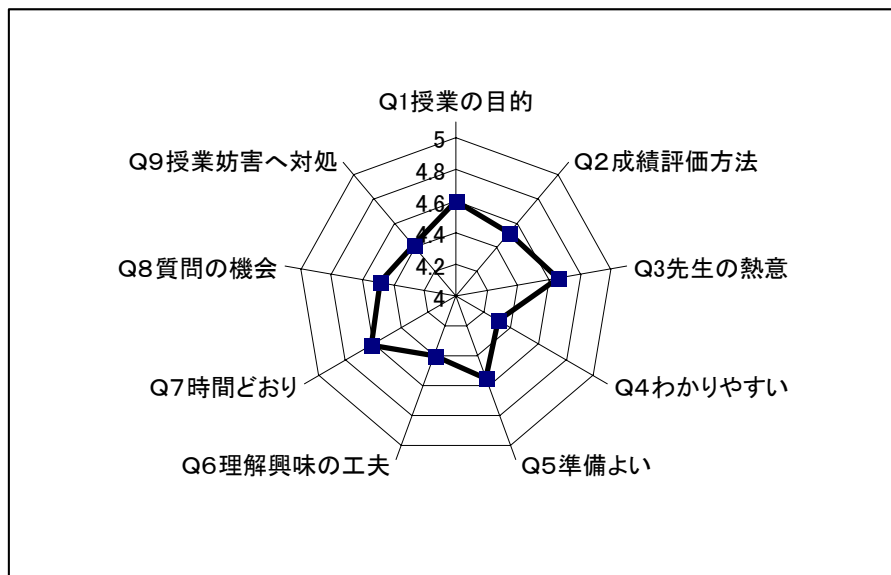


3 レーダーチャート

つぎに、教員要因、学生要因それぞれについてレーダーチャートを示す。

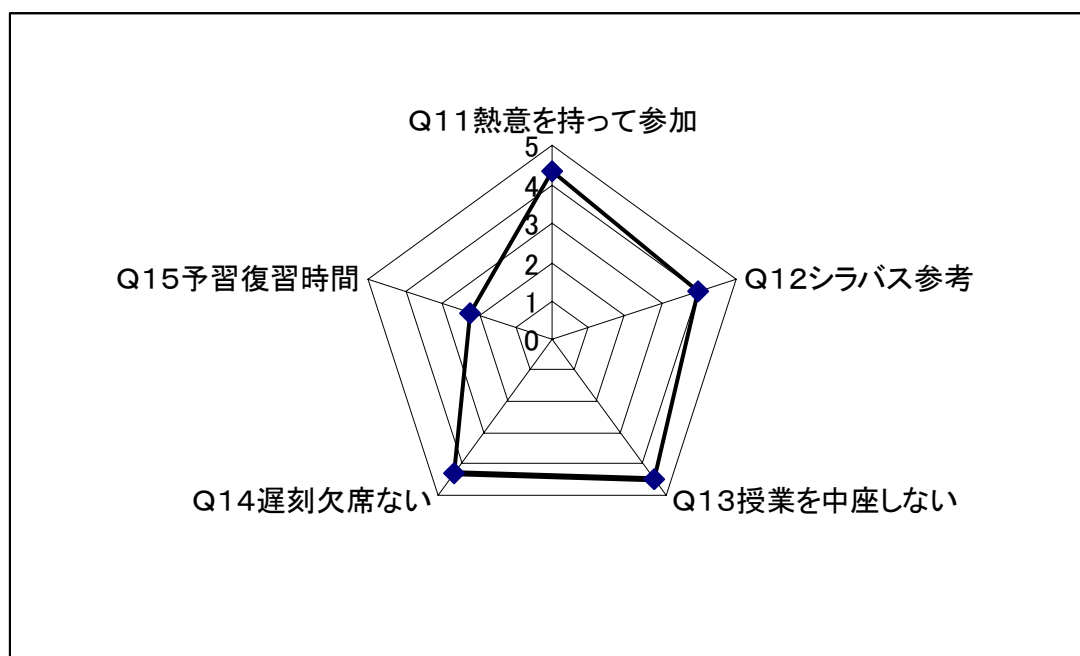
教員に課せられた授業改善点は、より「Q 4 わかりやすい」へ授業の努力であることがわかる。これと関連して「Q 6 理解興味の工夫」にも教員への課題がある。

また、「Q 9 授業妨害への対処」についても、「4」以上の評価ではあるが、授業運営に何らかの問題がありそうである。私語、居眠り、立ち歩きなどの「はじめ」の緩さが指摘されていると考えられよう。



教師要因のレーダーチャート

学生要因を見ると、学生の授業参加、とりわけ予習復習時間の少なさが注目される。加えて、シラバス（講義要項）をしっかりと読み込ませる指導の徹底が求められる。



学生要因のレーダーチャート

4 授業評価の5年間の経年変化（2007～2011）

本学は、2004年4月に開校している。完成年度（2007年）で、1～4年次の全学年が揃った。2007年から本年（2011年）までの前期の学生による授業評価について、その経年評価の変化について検討する。設問項目はこの期間中同一であったので、項目ごとに一元配置分散分析を施した。すなわち、評価年度を変動因として、各項目の平均値の比較をおこなった。結果は次ページに掲げた。また、年度ごとの平均値のグラフを示した。

全17項目中15項目で、年度の要因が有意であった。有意でなかった評価項目は、Q9「授業妨害への対処」とQ12「シラバス参考」であった。これら2項目はこの5年間変動が認められなかった、ということである。

以下に、経年変化を折れ線グラフで示す。平均値の目盛は項目によって異同があるので読むときに留意されたい。

年度間差が有意であった場合、例外なく2008年度が低い値を示し、2009年度がピークの値を示している。2009年度のピークの後、2010年度、2011年度と平均値が低下している。

分散分析(概括)

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
Q1授業の目的	グループ間	6.227	4	1.557	3.232	.012
	グループ内	7106.461	14752	.482		
	合計	7112.688	14756			
Q2成績評価方法	グループ間	6.331	4	1.583	2.683	.030
	グループ内	8697.374	14745	.590		
	合計	8703.704	14749			
Q3先生の熱意	グループ間	11.728	4	2.932	6.764	.000
	グループ内	6397.230	14758	.433		
	合計	6408.958	14762			
Q4わかりやすい	グループ間	17.927	4	4.482	4.711	.001
	グループ内	14038.652	14758	.951		
	合計	14056.579	14762			
Q5準備よい	グループ間	13.320	4	3.330	6.120	.000
	グループ内	8026.784	14753	.544		
	合計	8040.103	14757			
Q6理解興味の工夫	グループ間	20.017	4	5.004	6.461	.000
	グループ内	11428.993	14756	.775		
	合計	11449.010	14760			
Q7時間どおり	グループ間	7.802	4	1.951	3.834	.004
	グループ内	7507.210	14756	.509		
	合計	7515.012	14760			

Q8質問の機会	グループ間	9.054	4	2.264	3.305	.010
	グループ内	10100.157	14746	.685		
	合計	10109.212	14750			
Q9授業妨害へ対処	グループ間	2.443	4	.611	.842	.498
	グループ内	10669.155	14715	.725		
	合計	10671.598	14719			
Q10薦めたい	グループ間	29.481	4	7.370	8.254	.000
	グループ内	13175.868	14755	.893		
	合計	13205.349	14759			
Q11熱意を持って参加	グループ間	26.060	4	6.515	8.701	.000
	グループ内	11043.747	14750	.749		
	合計	11069.807	14754			
Q12シラバス参考	グループ間	7.436	4	1.859	1.379	.238
	グループ内	19835.747	14716	1.348		
	合計	19843.183	14720			
Q13授業を中座しない	グループ間	21.016	4	5.254	7.919	.000
	グループ内	9783.008	14745	.663		
	合計	9804.024	14749			
Q14遅刻欠席ない	グループ間	52.508	4	13.127	15.059	.000
	グループ内	12796.289	14680	.872		
	合計	12848.797	14684			
Q15予習復習時間	グループ間	60.753	4	15.188	11.699	.000
	グループ内	18320.785	14112	1.298		
	合計	18381.538	14116			
Q16全体的評価	グループ間	25.009	4	6.252	7.039	.000
	グループ内	12625.273	14215	.888		
	合計	12650.282	14219			
Q17別の科目も受講したい	グループ間	48.573	4	12.143	11.108	.000
	グループ内	15406.705	14093	1.093		
	合計	15455.278	14097			

以下に、年度ごとの平均値および標準偏差を掲げる。

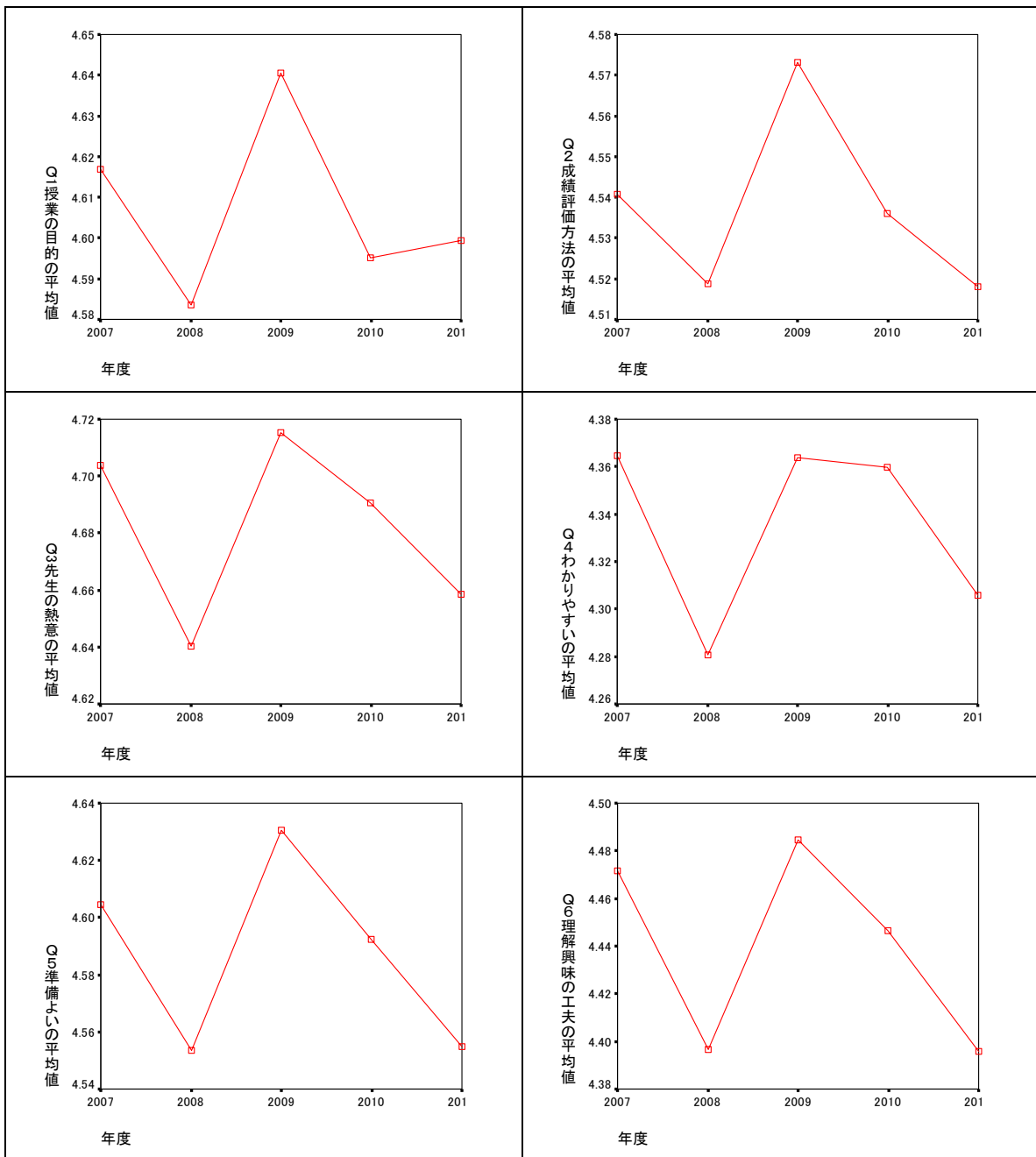
記述統計

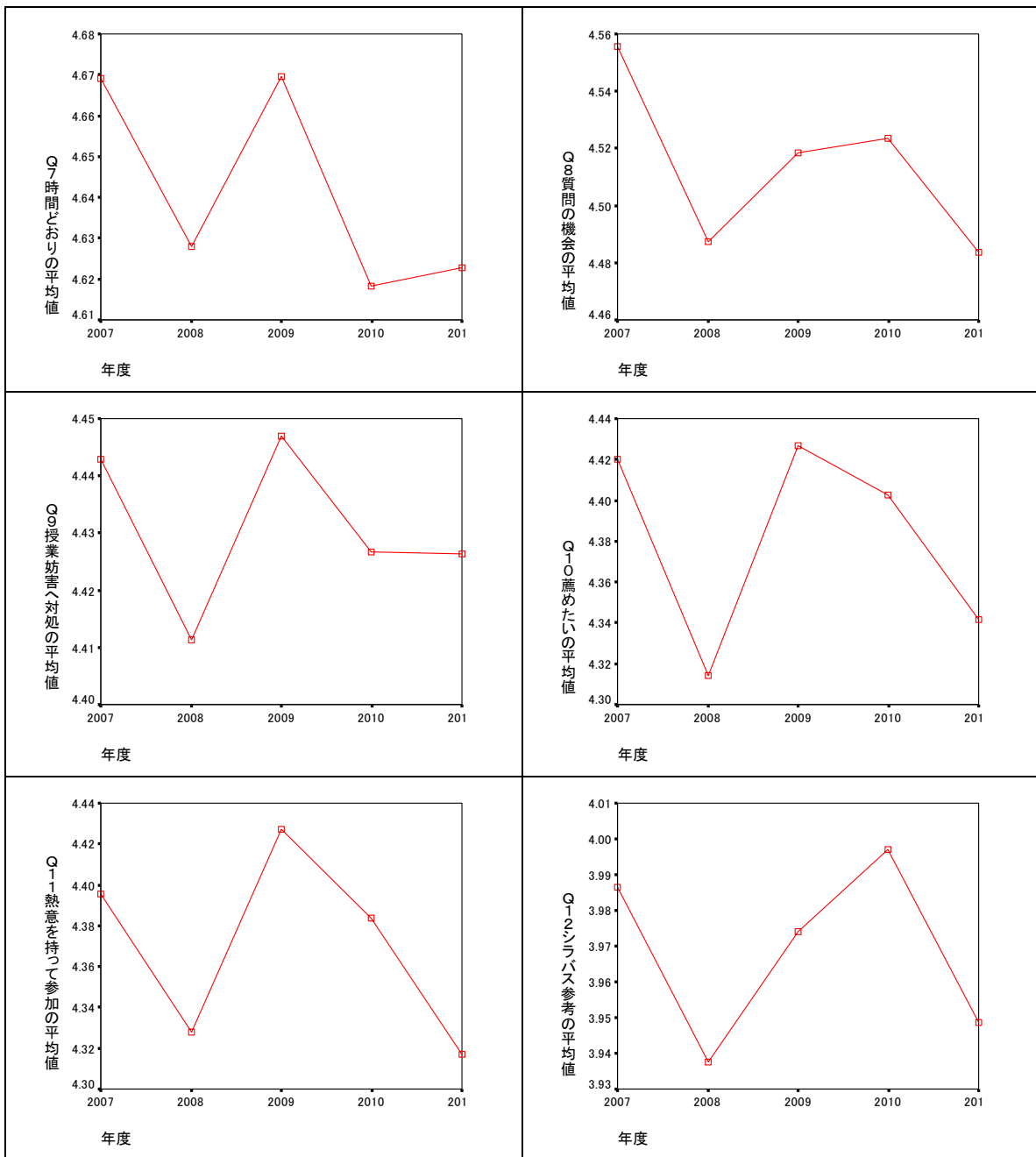
	年度	度数	平均値	標準偏差
Q1 授業の目的	2007	2396	4.62	0.70
	2008	2915	4.58	0.71
	2009	3368	4.64	0.67
	2010	3337	4.60	0.69
	2011	2741	4.60	0.71
	合計	14757	4.61	0.69
Q 2 成績評価方法	2007	2395	4.54	0.78
	2008	2913	4.52	0.78
	2009	3361	4.57	0.75
	2010	3340	4.54	0.75
	2011	2741	4.52	0.79
	合計	14750	4.54	0.77
Q3 先生の熱意	2007	2396	4.70	0.63
	2008	2913	4.64	0.71
	2009	3373	4.72	0.62
	2010	3340	4.69	0.63
	2011	2741	4.66	0.70
	合計	14763	4.68	0.66
Q 4 わかりやすい	2007	2398	4.36	0.95
	2008	2909	4.28	1.02
	2009	3374	4.36	0.96
	2010	3340	4.36	0.95
	2011	2742	4.31	1.00
	合計	14763	4.34	0.98
Q 5 準備よい	2007	2395	4.60	0.73
	2008	2912	4.55	0.77
	2009	3373	4.63	0.69
	2010	3338	4.59	0.71
	2011	2740	4.55	0.79
	合計	14758	4.59	0.74
Q 6 理解興味の工夫	2007	2396	4.47	0.85
	2008	2916	4.40	0.92
	2009	3367	4.48	0.84
	2010	3342	4.45	0.87
	2011	2740	4.40	0.93

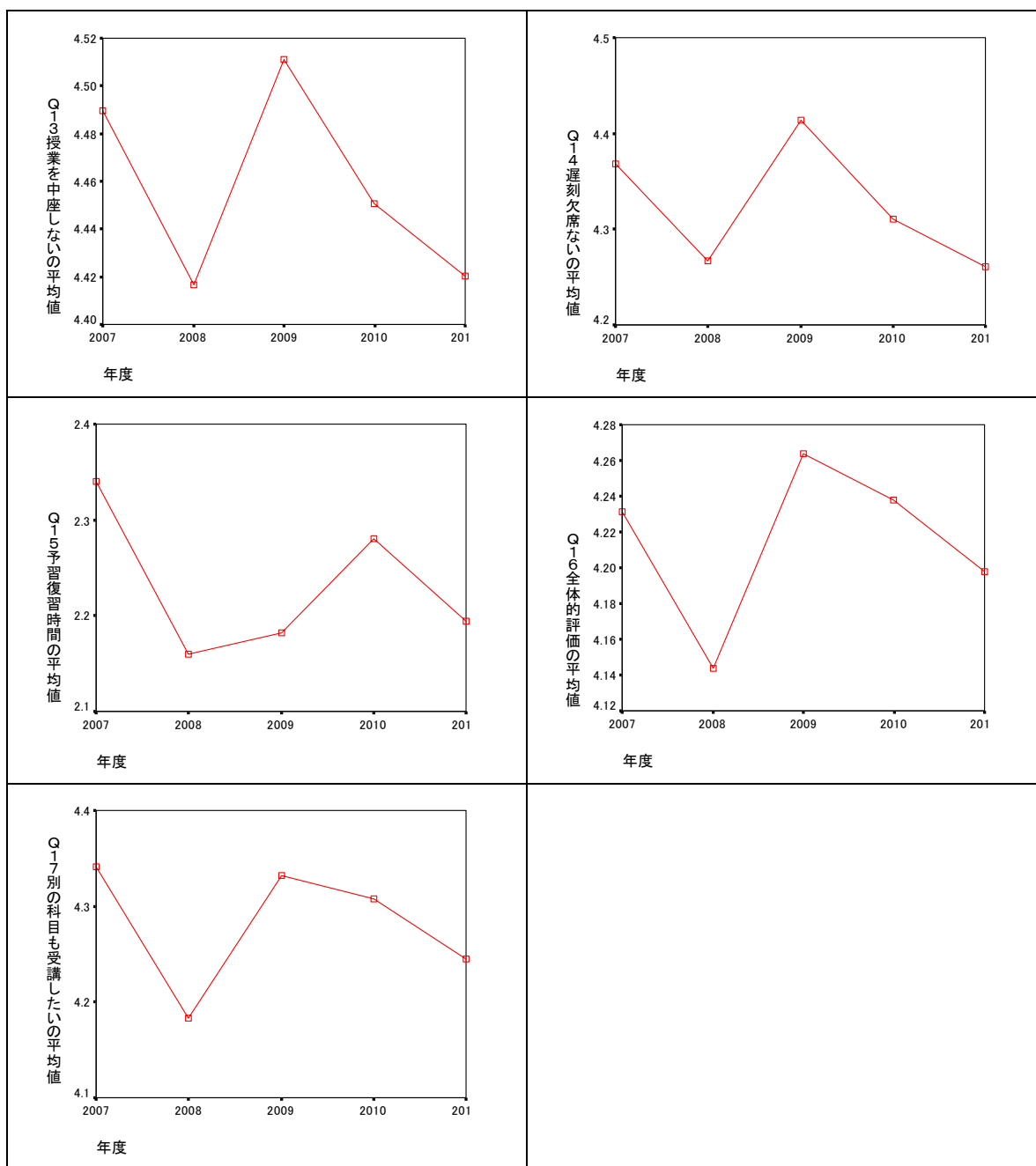
	合計	14761	4.44	0.88
Q 7 時間どおり	2007	2396	4.67	0.69
	2008	2913	4.63	0.71
	2009	3372	4.67	0.70
	2010	3342	4.62	0.74
	2011	2738	4.62	0.72
	合計	14761	4.64	0.71
Q 8 質問の機会	2007	2396	4.56	0.81
	2008	2909	4.49	0.84
	2009	3371	4.52	0.82
	2010	3338	4.52	0.81
	2011	2737	4.48	0.86
	合計	14751	4.51	0.83
Q 9 授業妨害へ対処	2007	2382	4.44	0.82
	2008	2910	4.41	0.87
	2009	3358	4.45	0.86
	2010	3333	4.43	0.84
	2011	2737	4.43	0.87
	合計	14720	4.43	0.85
Q 1 0 薦めたい	2007	2394	4.42	0.91
	2008	2912	4.31	1.00
	2009	3371	4.43	0.91
	2010	3342	4.40	0.91
	2011	2741	4.34	0.99
	合計	14760	4.38	0.95
Q 1 1 熱意を持って参加	2007	2396	4.40	0.84
	2008	2909	4.33	0.89
	2009	3369	4.43	0.84
	2010	3340	4.38	0.85
	2011	2741	4.32	0.90
	合計	14755	4.37	0.87
Q 1 2 シラバス参考	2007	2385	3.99	1.17
	2008	2902	3.94	1.17
	2009	3358	3.97	1.18
	2010	3334	4.00	1.14
	2011	2742	3.95	1.14
	合計	14721	3.97	1.16
Q 1 3 授業を中座しない	2007	2395	4.49	0.79
	2008	2909	4.42	0.85

	2009	3367	4.51	0.78
	2010	3339	4.45	0.83
	2011	2740	4.42	0.83
	合計	14750	4.46	0.82
Q 1 4 遅刻欠席ない	2007	2390	4.37	0.88
	2008	2903	4.27	0.96
	2009	3344	4.41	0.89
	2010	3327	4.31	0.96
	2011	2721	4.26	0.98
	合計	14685	4.33	0.94
Q 1 5 予習復習時間	2007	2314	2.34	1.22
	2008	2797	2.16	1.13
	2009	3204	2.18	1.10
	2010	3190	2.28	1.16
	2011	2612	2.19	1.10
	合計	14117	2.23	1.14
Q 1 6 全体的評価	2007	2336	4.23	0.91
	2008	2777	4.14	0.98
	2009	3265	4.26	0.91
	2010	3227	4.24	0.93
	2011	2615	4.20	0.98
	合計	14220	4.22	0.94
Q 1 7 別の科目も受講したい	2007	2295	4.34	1.00
	2008	2764	4.18	1.11
	2009	3214	4.33	1.02
	2010	3209	4.31	1.02
	2011	2616	4.25	1.08
	合計	14098	4.28	1.05

次項より、年度ごとの平均値を折れ線グラフで掲げる。







5 自由記述による評価（改善点を中心に）

自由記述による授業評価は、①授業の良い点、②改善してほしい点、③授業方法についての感想・意見・印象に残ったこと、④学長に聞いてほしいことの4つの設問から構成されている。この授業評価の目的は、第一義的には、授業の改善の資料を得ることである。ここでは、②の改善点を中心に検討を進める。

「もっとわかりやすい授業をしてほしい」といった授業の進め方についての希望が目立った。具体的には、「もっとゆっくり話してほしい」「説明が分かりにくい」「質問タ

イムを設けてほしい」「黒板に重要なことをもっと書いてほしい」等が代表される。これらは、教員としては誰もが第一に心がけている点であろうが、必ずしも十分な満足が得られていない評言が寄せられている。

授業の内容に関しては、「明確な授業の意図を示してほしい」「教科書が楽しくない」「内容が難しい」、が改善点として出されている。

授業の運営に関しては、「うるさい人に注意を促してほしい」や「声が聞きづらい」など、マイクの操作の工夫を望んでいる声がある。授業時における私語は、受講者の人数や授業の進め方等、工夫すべき点が挙げられるが、同時に学生に対しての指導も肝要であろう。

その他、教員にとっては大学生として当然と考えていることが、学生自身にとって、そうでもない改善要望がある。「課題が多すぎる」「レポートが多い」などである。授業に対しあらゆるチャンスを掴んで取り組んでいく姿勢が望まれる。

教授個人の特性に関しては、「もっと生徒の話を聞いてほしい」「先生が遅れてくる」等の声がある。また、「一方的に話し、単調な授業展開は眠気を催す」は、先生に一工夫して欲しいとの指摘であろう。

授業改善点に対する評価項目は、評価報告者約 500 名から 747 項目も寄せられており、この設問に対する関心の高さがうかがえる。

しかし、その内容においては自由記述形式なので、多種多様にわたっている。それだけに一つ一つをつぶさに吟味・検討していったは大勢が読み切れず、また大略的に検討していくと個々の真意を見失うことになる。

今後、授業の改善を一層進めていくためには、教員と学生が 1 対 1 による意見交換を行う場を作っていく必要がある。

おわりに

客観評価項目について全体的に見れば、教員要因としては 5 点満点中 4 点を上回っているものの、9 評価項目のうち授業の Q 4「分かりやすさ」領域で最低の値となっている。学生は授業の「分かりやすさ」を求めている。大学のユニバーサル時代・大衆化時代を経て、現在はターシャリー・エデュケーションの時代だという。伝統的な大学観にパラダイム変換が生じているということである。大学人の大学観と学生の大学観に齟齬が生じていることが推測される。教員の大学観に学生を教導するのか、学生の大学観に寄り添っていくのか重大な岐路に立たされている。ターシャリーの大波に本学は適応しなければならないだろう。その前に本学学生の「大学観」について研究しなければならない。伝統的な座学中心から別の授業展開方法の導入も考慮しなければならないだろう。これが授業を「面白くする」創意工夫になるであろう。多様な学生を対象とする困難な課題である。

学生要因としては「予習復習」などの時間が少ないことがあげられる。「予習復習」の自学自習をしない、という学生の現状がある。その中で授業が行われている。授業は成り立っているのか。予習復習をさせるための何らかの対策が立てられなければならない。学習への動機付けを如何にするか。「これが教員に課せられた重い課題である。

自由記述の部分については、数多くのさまざまな評価・意見が寄せられている。
これら評価・意見について、意見交換を行い改善に取り組んでいくことが重要な課題である。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。
率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

評 価 欄

1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5	4	3	2	1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)				
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 秀	4 優	3 良	2 可	1 不可 0 わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所 属 学 科	1 英語科 2 保育科			
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試 2 推薦入試 3 AO入試			

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

P A R T II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を
担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点

2. この授業に改善してほしい点

3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。

4. 学長へ（聞いてほしいこと）
